

第 73 回 NPO 法人 口から食べる幸せを守る会 実技セミナー in 大崎

開催報告

会期：平成 30 年 10 月 14 日(日)

会場：大崎市医師会附属高等看護学校

主催：永仁会病院 三浦病院 宮城県立循環器・呼吸器病センター

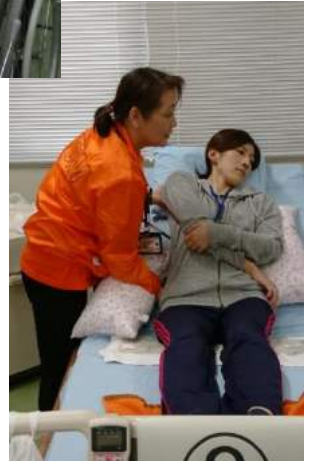
【開催目的】

県北地域の高齢化率が高く、いずれの疾患においても高齢や認知症による摂食嚥下機能の低下・障害を抱える患者が増加している。また、今後在宅での介護はさらに増加していくことも予測される。しかし、摂食嚥下障害に関わる食事介助の知識・技術が不足しているまま食事介助をしている現状がある。今回、摂食嚥下の基礎知識や口腔ケア、ポジショニング、食事介助スキルを受講者が習得することで、地域の施設での安全な食事介助や家族への指導ができるようになる。セミナーを開催することで口から食べる技術を地域に広げる。

～講師・アドバイザー一覧～<敬称略>

氏名	所属	職種（摂食嚥下に関する資格）
小山 珠美 (神奈川)	NPO 法人口から食べる幸せを守る会理事長 JA 神奈川県厚生連伊勢原協同病院	看護師 (日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士) (KTSM 実技認定者)
竹市 美加 (兵庫)	NPO 法人口から食べる幸せを守る会副理事 訪問看護ステーション たべる	看護師 (摂食嚥下障害看護認定看護師) (KTSM 実技認定者)
一瀬 浩隆 (愛知)	NPO 法人口から食べる幸せを守る会理事 あい訪問歯科クリニック	歯科医師 (日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士) (KTSM 実技認定者)
三束 梨沙 (宮城)	気仙沼市立病院	言語聴覚士 (日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士) (KTSM 実技認定者)
小野寺 裕子 (宮城)	社会福祉法人 なかうつみ会 特別養護老人ホーム恵潮苑	看護師 (KTSM 実技認定者)
小山 竜也 (宮城)	社会福祉法人 なかうつみ会 特別養護老人ホーム恵潮苑	介護福祉士 (KTSM 実技認定者)
佐々木 美代子 (宮城)	宮城県立循環器・呼吸器病センター	看護師 (KTSM 実技認定者)

実技セミナーin 大崎の様子



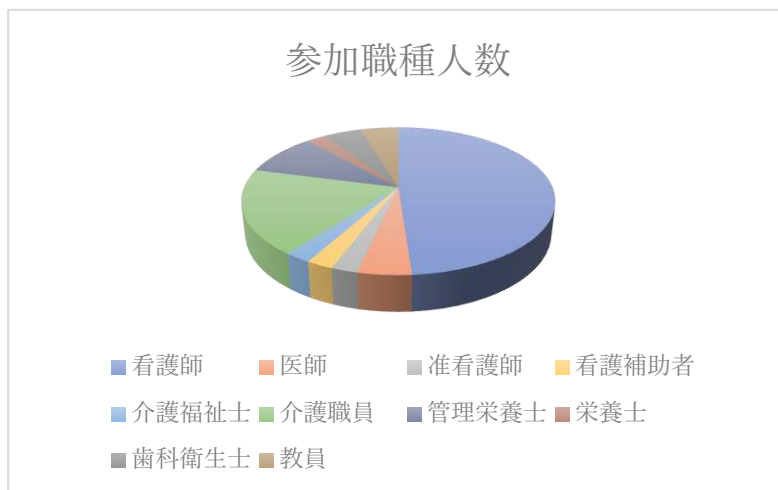
9



アンケート集計結果(参加者：44名 回答者：42名)

【Q1：職種】

看護師	21
医師	2
准看護師	1
看護補助者	1
介護福祉士	1
介護職員	8
管理栄養士	4
栄養士	1
歯科衛生士	2
教員	2



★K T S M実技セミナーへの参加回数と参加理由

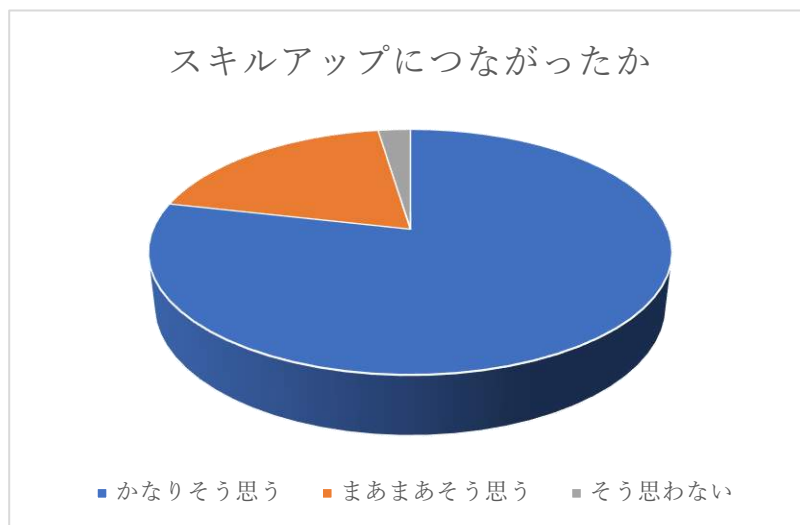
【参加者全員が初めての受講】

- ・今まで自分の食事介助のやり方が正しいのかどうか、患者にとってどのような食事介助が一番いいのか、もう一度知りたいため。
- ・食事介助は、まだ未熟なところと不安なところがあるため学んでしっかり身につけたいと思いました。
- ・日頃の食事介助が適切かどうか確認する意味とスキルアップしたいと思って参加した。
- ・もっとスキルアップしたいと思い参加しました。
- ・口腔ケア、経口摂取が大切だと思ったため。
- ・口腔ケア、食事を介助する時の技術を勉強したかったため
- ・食事介助を要する患者が多く、安全に美味しく食べるための知識と援助の方法の取得。
- ・実際に介助の姿勢など、どのように介助したらいいのか、方法を実践したくて参加した。
- ・食事介助の知識技術を高めるため。
- ・食事介助のポジショニングや口から食べる技術を学びたかった。
- ・食事介助する際、食べさせ方やペースなど自分のやり方に疑問があった。
- ・業務の中での口腔ケアに役立つと思ったため参加させていただきました。
- ・摂食嚥下について演習しながら知識を深めたいと思った。
- ・食事介助の実際が分からない、患者が食べにくそうな現場を見かけても、どのように直したらよいか分からない。
- ・口腔ケア、ポジショニングを学び摂食嚥下の知識を習得したいと思ったから。
- ・食事介助の患者が多数おり、正確なポジショニングの方法及び口腔ケアの実技を学びたいと思っていてところに師長から声をかけてもらった。

- ・日常、食事中の食べこぼし、食事姿勢（傾き、食べこぼし）が食事量、栄養量に影響を与えていると感じ、このセミナーにて学び、活かしたいと思った。
- ・食事介助の時、（高齢者）むせさせてしまった経験があり、自分の技術に不安を感じたため。
- ・嚥下機能の低下や認知症、疾患等により施設で食事を食べられない利用者があり、業務の参考にするため。
- ・勤務する当病棟には高齢者、寝たきり、食思不振、繰り返す誤嚥性肺炎で入院する患者が多い。食事介助を要する場面が多く、限られたスタッフで安全に食事介助するための技術、スキルアップを図りたく参加しました。
- ・今春、口腔ケア、嚥下訓練、VE 検査、口から食べる重要性を学ぶ機会がありました。今回、口から食べる幸福感や重要性について事例を通し、更に実践から多くを学びたいと考え受講しました。
- ・病棟勤務で認知症の患者が多く食事摂取が上手くいかず、すぐに点滴をしたりする方が多いため、何か参考にならないかと思い参加しました。
- ・今年から KT バランスチャートを活用し、患者さんが一口でも食べられるような取り組みを行っています。より実践的な内容で理解を深めたいと思い参加させていただきました。
- ・KT バランスチャートを学会などで知り実際に使用するために詳しく勉強したかった。
- ・嚥下障害を持つ患者に対する食事介助のテクニックを学びたかった。
- ・嚥下障害のある患者と関わる上で、興味があったから。
- ・来年度のポジショニングの研究発表のため。
- ・地域包括ケアシステムの具体的実践項目の中で、“口から食べる幸せ”を取り戻しサポートしていくことは重要な位置を占めると考えています。その具体的な実践方法と理論を是非、身につけ今後に活かしていけたらと思い参加しました。
- ・会社から本日の研修のことを聞き、是非学ばせていただきたいと思った。
- ・以前、竹市先生が当院で講義をされた時に実技セミナー開催を教えて頂いたため。
- ・以前、涌谷で行われた研修会に参加し、実際に体験してみたいと思い参加しました。
- ・以前、講演を聞き興味を持っていた。今回実技ができると聞き参加した。
- ・病棟で実践を活かせるよう学んでいきたい。
- ・職場で命じられたから。
- ・主催スタッフに誘われたため。
- ・施設管理栄養士の勧めにて参加しました。
- ・師長の勧め。
- ・前回参加した方から、すごく良い研修だったと話を聞き、会社から声がかかったため。
- ・NST チームに所属しており参加を勧められたため。

【Q2：セミナーの内容はスキルアップにつながりましたか？】

かなりそう思う	33
まあまあそう思う	8
そう思わない	1



Q2 かなりそう思う 33人

- ・非常に勉強になりました。時間が足りない。もっと実技の時に、どこが悪いか一人ひとりチェックする時間も欲しい。
- ・介助の仕方、速さ、姿勢の安定の方法を学べてよかったと思います。
- ・食事介助の方法やポジショニングについて、自分の中であいまいな部分があったので今日のセミナーはすごく勉強になりました。
- ・明日から意識しながら介助しようと思います。
- ・スキルについて普段の振り返りができました。現場に戻って他のスタッフに少しでも自信をもって教えていきたい。
- ・自分がいかに適当に、そして個別性を考えないで作業的に行っていたのかが分かりました。食べられない原因を自分が作っていたのかも反省しました。明日からもっと患者をみて対応していきたい。
- ・数か月現場から離れ最近現場へ戻り、食事介助の自分で行っていた良い悪いなど見直すことができました。
- ・ただ食べさせるだけではなくエビデンスを基に行われていること、また患者の意欲をアップさせることに繋がることを知った。
- ・食形態と摂食時ポジショニングについて、これまで間違っていたことに気づかせてもらいました。明日から正しいベッドアップ角度で介助してみます。
- ・実践することで介助者、患者の両方の視点で学ぶことができた。
- ・ポジショニングの方法から食事介助の方法まで、ポイントを含めて良く理解できました。
「患者の手になる」という言葉を忘れずに実践に活かしたいと思います。実際に体験することで、より理解が深まりました。
- ・講義の方で、口から食べることがいかに重要で、その後の生活に大きく関わり、変化をもたらすことがよくわかりました。
- ・実際に口腔ケア、ポジショニング、食事介助、評価を行い、患者を体験することで、食べやすい姿勢や

方法を理解し、感じることができました。ラウンド時に今回学んだことを頭に入れて食事の様子を見ていきたいです。

- ・知らなかったこと忘れていたことを、学ぶことで思い出すことができました。
- ・ポジショニングの作り方は参考になった。
- ・正しいスクリーニングや食事介助の方法を学ぶことができました。
- ・実際行っても、つい自分のペースで力を入れて食事介助や口腔ケアをしていたと痛感しました。演習を自分でやってみて、体験することで感覚が分かったので実践していきたいです。
- ・あやふやなことが、はっきり明確となった。
- ・食事への視覚的アプローチやポジショニングの大切さがよく理解できた。
- ・実際に患者・介助役になり、食事形態の変化で食べやすいポジショニング、食べるスピードを学ぶことができた。
- ・実際に患者役や介助役を行うことで患者の気持ちを分かることができました。また、介助者役をやることで食事介助のスキルを身に付けることができました。
- ・患者役も体験し、ちょっとした工夫で安楽に繋がると感じました。
- ・実際、食事介助をして利用者に不安を与えるような介助をしていたので、とても勉強になりました。
- ・スプーンの使い方など参考になりました。肘の高さの大切さ（自分、利用者さん含め）
- ・実例などを見て口から食べることの大切さ・必要性を学ぶことができました。
- ・認知症の方の食事介助の仕方など、とても勉強になり今までの疑問が解決した。
- ・ポジショニング、食器の位置、スプーン介助時の持ち方、スピード、患者さんの（食べる行為についての）意識の持っていく方など未知のことが多かった。
- ・ポジショニングや、いつもやっていないことなど勉強になった。

Q2 まあまあそう思う 8 人

- ・実践をすることができたことはスキルアップに繋がるのではないかと思う。
- ・ポジショニングの重要性を再認識しました。
- ・スプーンを口へ入れる方法、角度での違いに驚いた。視覚の情報も大切だと感じた。

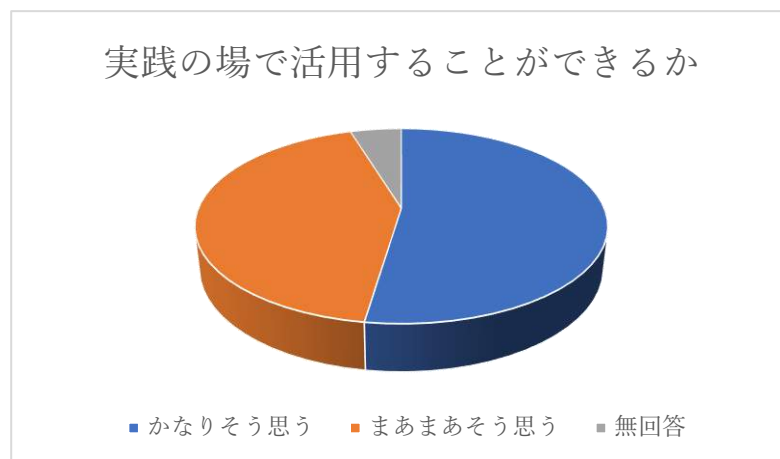
Q2 あまりそう思わない 0 人

Q2 そう思わない 1 人

- ・今までポジショニングや食事介助は、いい加減にしていた。大切さを学びました。

【Q3：今後の実践の場面で活用することができますか？】

かなりそう思う	22
まあまあそう思う	18
無回答	2



Q3 かなりそう思う 22人

- ・ 今回のセミナーを受けていないスタッフも同じ知識で同じ介助ができるように。
- ・ 自分の親(80代)に実際の援助で活かしてみたい。共通援助技術の演習で学生に体験させてみたい。
- ・ 食事介助の仕方、ポジショニング (3人同意見)
- ・ 医師という立場なので病棟内で食事に見回って指導することができる。
- ・ 食事介助の際、まずはポジショニングから始めること。具体的な介助方法は明日からでも活かせると思いました。
- ・ 全介助の人や認知症のある人、絶食したことで食べることを忘れてしまった人に是非実践してみたいと思います。
- ・ 食事介助・食形態が個別対応できていないので、チームで対応できるよう助言していきたい。
- ・ 今の部署は自立患者が多く、寝たきりや食事介助が必要な患者はたまにしかいないため、若い人の口腔ケア、食事介助に対する意識が低い。口が汚くとも口腔ケアすらしらない人もいるため、ポジショニング、ケアのポイントなど学んだことを伝えたい。昨日も医師は安易に絶食にしました。今日のことを伝えたい。
- ・ 食事の際、車いすに座っている時の傾き等を直し正しい位置で食べて頂くことができますと思います。
- ・ 在宅看護方法論の講義、介護福祉士の講義など臨地実習での指導に活かしていきたい。
- ・ 食事介助
- ・ KT バランスチャートを多職種で共有し、口から食べるという目標に向けて取り組む➡地域を巻き込んで行いたい。KT バランスチャートで評価するにあたり、食事の様子や身体症状についての観察ポイントが理解できたので実際の評価の中で生かす。食事時のポジショニングや介助方法を現場で生かす。
- ・ 食事介助は職場では行う機会が少ないのですが、口腔ケアは日々行っているので取り入れていきたい。
- ・ 施設での食事介助の際、ベッドの角度や態勢が合っているのか今回分かりやすく教えて頂いたので、すぐに実践しようと思います。
- ・ 病棟で食事介助する場面が多いため、活用していきたい。
- ・ 食事介助、口腔ケアは実践させてもらったので、力を入れずに優しく、程よく力を入れケアしていきたい。

と思います。ポジショニングをきちんとすることで、患者が気持ちよく食事することができるかと体験できました。実践していきたいと思います。

- ・ポジショニングの重要性、視覚からのアプローチが意欲に繋がる援助の大切さ、非常に活かせると思った。
- ・必ず朝・昼・夕食事介助やポジショニングがあるため今回のセミナーで学んだ技術をスタッフへ伝えていきたい。
- ・忙しさを理由にしてしまうけど、ポイントを掴むだけで患者にとって安全な体位・介助ができると感じました。
- ・食事介助の場面ですぐに活用していこうと思う。
- ・関わる利用者に対し食事を楽しんでもらいながらカロリーアップを目指せたら良いなと思いました。
- ・講義を通して、その重要性と知識を後輩たちに伝えていきたいと思います。
- ・食事介助、食事を開始する前から評価するので活用できると思う。

Q3 まあまあそう思う 18 人

- ・誤嚥予防という形で、委員会で話し合い今日学んだ内容を一部取り入れて実施できればと思う。
- ・研修委員会等で広く周知したいと思います。
- ・いろいろな場面があると思うので、それに対応できるかわからないところがある。
- ・麻痺のある患者のポジショニングや介助方法、口腔手術後患者の食事介助時スプーンの接地位置やベッドアップ角度と食事内容の関係。
- ・職場での食事介助や口腔ケアに役立てたい
- ・基本的な面を再確認できてよかったが、片麻痺や拒否、認知症の度合いにより個々の対応をしなければならぬと感じた。
- ・姿勢で食べづらそうにしている方などにアドバイスもしくは自分で食べやすい姿勢にしてあげられそうなことや、不適切な介助などがあれば指摘してアドバイスができるのではないかと思う。少しでも食べることを維持してあげたいと思う
- ・不適切な姿勢を見つけられる。介助者にアドバイスできる。
- ・ミールラウンド時、食事の様子を見て適切な姿勢や方法で食事が食べられているか確認していきたいと思います。
- ・食事姿勢は現在自力で召し上がっている方も食べこぼしが多い。姿勢が崩れるなどが多いがタオルや他の物を活用して改善できると思うが施設備品としてのテーブルの高さを変えられない(高すぎる)ところは難しい状況です。
- ・患者の食事介助時、本人のQOLを目指したい。食べられる喜びを感じてもらいたい。
- ・自力摂取困難が多数いる施設で実践できる。
- ・NST ラウンドでのポジショニングの見直しや介助方法の是正など。
- ・伝えることはできても職員のやる気にやや問題があるかも。個人差がありすぎて 1 人でやってもと思う。
- ・食事介助を必要としている入居者が多くいるので、この研修で学んだことを活用し、自分で食べる喜びを感じてほしい。
- ・食事介助の患者がいるときに、肘の高さや食べる順番やスピードに気を付けるようにしようと思った。

- ・当院では全介助で食事をしている人が多数いるし片麻痺のため傾斜してしまう人もおり体位の調整について参考になった。

Q3 あまりそう思わない 0人

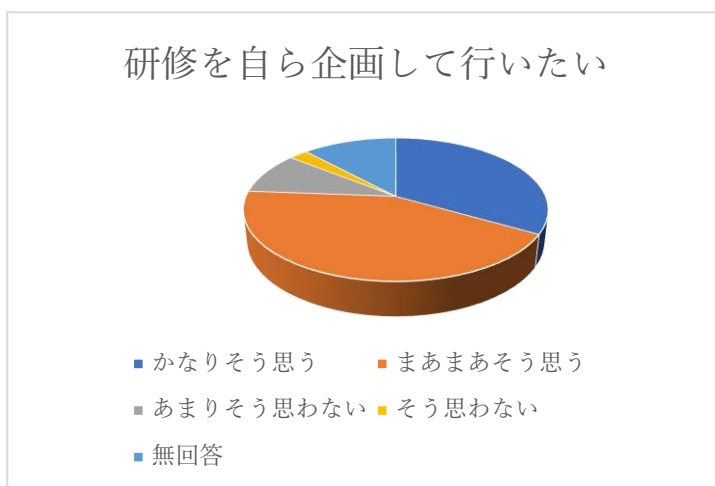
Q3 そう思わない 0人

Q3 無回答 2人

- ・食事介助姿勢速さなどを活用していきたい。
- ・KT スプーンの形状、なんでこんなに長いの？使用してみて理にかなっていることが分かり、当院も大事に保管されているようなので患者さんに使ってもらって自立を促せたらと思います。

【Q4：実技セミナーのような研修を自ら企画して行おうと思いますか？】

かなりそう思う	14
まあまあそう思う	18
あまりそう思わない	4
そう思わない	1
無回答	5



Q4 かなりそう思う 14人

- ・周辺施設でも食事介助は、いろいろ課題や問題が出てきているので多くの人にやってもらいたい
- ・実現できればメリットが大きい。できることから取り組みたい。
- ・食事時のポジショニングを体験して、食べてみて他スタッフの気持ちを変化させてほしい。
- ・今回のセミナーを受けていないスタッフも同じ知識で同じ援助ができるように。
- ・自分の親（80代）に実際の援助で活かしてみたい。共通援助技術の演習で学生に体験させてみたい。
- ・食事介助の仕方、ポジショニング
- ・分かっているようで分かっていないことなど、沢山あると思うので改めて勉強するという意味でも行った方が良くと思いました。
- ・施設内研修として全体職員が学べる機会があればよいと思う。
- ・NST チームを含めて院内研修の実施に努めたい。
- ・スタッフみんなへ食事介助、ポジショニングの必要性を知ってもらいたいため。
- ・病院へ持ち帰って職員全員ができるように伝達方法を考えていきたいと思いました。

Q4 まあまあそう思う 18人

- ・実際のところ食事介助の大半は補助者の業務なので、まずは補助者へ伝えることが大切だと思います。
- ・NST Ns に伝えて勉強会の企画をしたい。でも、業務に追われているため準備やスタッフたちも余裕がないため、どうやっていいか迷う。
- ・今の人数では難しく思います。

- ・研修委員会等で広く周知したいと思います。
- ・誤嚥予防という形で、委員会で話し合い、今日学んだ内容を一部取り入れて実施できればと思う。
- ・知識等がもっと習得したら行いたい。まずは自分の家族に教えたい。
- ・会議などで伝えられればと思います。
- ・いろんな方が口から食べる大切さ、必要性を理解して介助の環境を整えてほしい
- ・業務でいっぱいであるが、できないこともない。

Q4あまりそう思わない4人

- ・他人に伝達できるまで、まだ力が不足だと思うから勉強や実践を積んだらやりたい。
- ・そういう立場ではないので。

Q4そう思わない1人

- ・1回しか（研修に）来ていないため理解していない部分も多いから。

Q4無回答5人

- ・口腔ケアの実践などを行っていききたい。
- ・看護学校の教育の中で（知識・技術）取り入れていくべきだと思いました。看護教育の中で取り入れることで普及の促進になると思います。
- ・この講演を聞いた人が徐々に増えているので、受けていない人に指導しながらともに勉強していこうと思う。

【Q5:口から食べる】 ことに関する内容で、今後の実践セミナーで取り上げてほしい内容

- ・麻痺や神経疾患があり態勢が上手く整わない人や筋硬直の強い人などポジショニングが上手くできない人はどうするのか
- ・拘縮が強い患者に対するポジショニング
- ・化学療法患者で副作用のため食事量がほとんど食べられない患者が多くいる。そうなったときに補液の追加やバラエティー食の介入くらいで、個別性の介入として医師の考えはほぼない。医師対象の口から食べる重要性を伝える勉強会をしてほしい。
- ・嚥下訓練も興味があります。
- ・認知症のある方の食事介助について（食事を拒否する、口を開けない、集中できないなど）
- ・嚥下訓練食の形態、種類、作り方
- ・具体的な献立の作成方法など
- ・ソフト食をよく潰して食べさせて、むせ込んでしまうという経験をよくするので正しい食べさせ方を教えてもらいたいです。
- ・もう少し演習時間があると細かく質問や確認ができたかと思いました。
- ・本日の食事の形態を工夫し、おいしそうな食事、十分な蛋白質、カロリーを維持改善につなげていった事例を見て素晴らしいと思いました。食事についての情報、作り方も教えてほしい。栄養課の協力を得られればと思いました。

【Q6:KTSM 実技認定審査を受けることを希望する】

関 由美香 : ゆくゆくは、まだまだ勉強してからですが
田村 紀子

【全体の評価及び今後の課題】

運営についてはセミナー当日準備まで円滑に運び、セミナー当日も概ね問題なく実施できた。受講者アンケート結果も 95%の回収率で、「Q2:セミナーが自身のスキルアップにつながったか」は 97%が肯定意見で、「Q3 : セミナーの学びが活用できるか」は 95%の肯定意見を得た。「Q4:セミナーのような研修を自施設で企画開催しようと思うか」については 76%の肯定意見だった。Q3, Q4 に無回答もあったが全て肯定的理由の内容が記載されていた。

現状	あるべき姿	対策
セミナーを毎年開催しているが地域の「口から食べさせる」ことに関する知識・技術が向上しない。	「口から食べる」重要性を地域に広める。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域のアドバイザーがセミナー受講経験者を対象にフォローアップセミナーを行い、確認の機会を設ける。 (年 1 回の研修のみで個人がスキルを維持するのは困難なため、身近なアドバイザーがフォローアップする) 2. セミナー受講者の簡単な事例発表会をすることで、成功体験や失敗体験を共有し経験値を増やす。 (受講者への承認と提供しているケアの振り返りの機会とする) 3. セミナー受講者のいる施設で出前講座を開く。 (実際に現場で介助方法やポジショニングを外部の指導者が実施することで導入しやすくなる)
アドバイザーが育たない。	アドバイザーに興味を持ってもらう。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 最近の教育の現場では、厳しいものは疎まれるため楽しい研修を目指しコーチングなどを取り入れ受講者に考えさせて答えを導き出せるように関わる。 (導入時は興味を持ってもらうことが一番なので好印象でセミナーを終了できるようにする。印象よく、興味を持ってもらうことで理解者のすそ野が広がる。レベルアップするにしたがって厳しくなるのは目指すものがあれば耐えられる) 2. アドバイザーが 2 グループを担当する場合の指導方法を要項の動きに記入してシステム化する。 (グループによって実技セミナー受講後の印象が違っていた。アドバイザーも負担感なく楽しくセミナーの時間を過ごせるセミナーが理想。受講生はアドバイザーのモチベーションの影響を直接受けてセミナーを終了している)

文責 宮城県立循環器・呼吸器病センター 鈴木昭子